

学会——その占める位置と、そのかかえる問題を考えてみる

## 学会の現況とその問題点

### 工学系 5 学会による座談会

座談会という形式で語るにはあまりにも大きい問題かも知れないが、「学会」というものについて工学系 5 学会の各位をわずらわして語っていただいた。本文は、昨年 11 月 16 日、新宿ステーションビル・レインボーホールで収録した速記からとったものである。当日、ご多用中のところをまげてご出席承った各位に、誌上より厚くお礼申上げる次第である。

【編集部】

### 最大の問題は総合と分化

**司会** 今日、工学系でかなり大きな組織をおもちの 4 学会の方々から、学会というもののこれからのあり方や組織につきまして、いろいろお話しを伺いたいと思います。まず、機械学会の八田さんから……。

**八田** 学会としての問題点というものは、私どもの方も皆様方もだいたい似たりよったりだと思うのです。ご承知のように、機械というのは非常に分野の広いものですから、現在でも 28 の部門委員会がありますが、ちょっと手をゆるめるとますます増える傾向にあるわけです。しかも、その部門委員会のそれぞれに相当する専門の学会ができていくか、またはできつつある。そういった点で、やはり総合と分化が大きな問題です。それから、会員の多くが、少なくとも三つ以上の学協会などの団体に所属しているという現状から、機械学会としてはどうしても総合的な面を受けもたざるを得ない。しかしいまの所では、専門学会がどんどんできて、その結果、機械学会がそのために空中分解するといった心配はあまりないんですね。むしろ、機械学会を中心にして、これ

を盛り立てて、その下で協力していこうという空気が強い。だから私どものほうでもできるだけ専門学会と講演会を共催したり、そのほかいろいろの面で互いに役立っていこうとしているわけです。しかし、一方、機械学会全体の組織とあり方を根本的に検討するために、臨時の委員会を近く発足させることになっています。組織の面では、現在、機械学会の会員は約 43 000 名で、毎年 2 000～3 000 名程度増えている。ところが今の組織は会員が数千人のときのものが、そのまま生きているわけです。事務管理の面で機械化など機構の動きがとれなくなっている。それから本部と支部の関係をもっとはっきりさせたい。各専門学会との関係をどうして行くかという問題、そのほか予算面のことも含めて、この際学会の組織全部を再検討しようということなんです。

**司会** 土木学会でもそれをやろうという話しは聞いたのですが、実際には動いていないようですね。土木学会は理事会が最高の執行機関なわけですが、結局、定例理事会のありかたなどについて、ゆっくり議論するひまがない。

**八田** その点、機械学会では全体の理事会では大きい問題だけ扱いかい、事務的な問題はすべて庶務、編集、会計の三理事会に任せるという方法をここ数年とってきています。

**司会** どうもありがとうございました。つぎに、建築学会の吉阪さんから……。

**吉阪** 建築の方で問題になっているのは、同じような性格というか、少しずつ違った団体として、建築学会、建築士会、建築家協会というように 8 団体もあることです。これらの任務分担的なものはっきりさせることが必要じゃないかということですね。たとえば、建築士会というのは、戦後、建築士法の制定にともなって発足したのですが、全国で 60 000 人も会員がいるのに、その団体としての性格が出発点においてははっきりしていなかった。さらに、設計者だけの集りである建築家協会ができ、歴史としては、建築学会が一番古いのですが、現在ではこれらの団体がだいたいダブったようなことを並行してやっているわけです。それから、建築業会というのがあるのですが、これも施工業者の中に設計部門も技術部門もあるわけで、それらの人々が一体どこに属したらよいかというような問題も残されています。そこで、私ども建築学会にはとにかく建築に興味のある人々をすべて入れようというような考えかたで、もっとも幅広くすべての人々が集まる場にしようという方向に向いているようです。

**司会** そうすると、会員になる資格はあまりうるさいことは……。

**吉阪** 紹介、推薦されればだいたい OK するわけで

す。それから、雑誌ですが、これは、専門のかたにはどうしても食い足りない、かといって専門を入れると読めない人が多くなるという悩みはあります。ことに地方と中央では雑誌に対する声に相当の開きがある。そこで、特集号の形とか、テーマを置いていろいろな方面からその問題を見つめてまとめるという方法で、どうやら、あまり片寄らず、しかも、必要に応じて専門分野の問題も出せる方法をとってきました。それから、学会にとっての大きな問題として、税金関係のことがあるようなのですが、出版事業などで利益が出た場合のことなど、こまかいことはよくわからないのですが、あるようです。

## 学会誌は赤字歓迎

八田 非常に困ることで、いまでは会費をとって会誌を渡すということで、税法上は商業雑誌を買っているのと同じ形になっているわけですね。

吉阪 ええ、最近そういうことになったわけですね。しかし、編集長として大変ありがたいことは、赤字になればいいんだということ(笑)……。

司会 そうらしいですね。もうかっちゃったら課税の対象になるということで……。最近では純粋な学術団体じゃないのに、学会という名前をつけるものですから、それらの中に非常に利益を上げている所があって税務署が目光らせるようになったらしいですね。ではつきに化学会の石坂さん、いかがですか？

石坂 日本化学会は、いままでのお話とは多少系統が違っておりまして、基礎の関係を相当していた旧日本化学会と、工学をやっていた工業化学会が合併して、戦後新しく日本化学会として発足していますから、内容もほかの学会とは変わっておりますし、したがって、問題も多少違っているかと思えます。しかし、根本的にはやはり似たりよったりの問題を抱えてはいるようで、たとえば、専門の問題としては、化学関係の大きな学会として日本化学会のほかに、薬学会、農芸化学会の二つがあるのですが、これらの分類はどちらかという、会員が過去において学生のときに何を専攻したかによっているので、現在やっていることとちょっと違ってきているか

も知れないわけです。そういう学会のことを私どもは縦系学会と呼んでおります。これに対して横系学会というものがあるわけで、たとえば、分析は工業化学をやる人にも、農芸化学の人にも薬学のほうにも必要だということで、これらが横系の関係にあたる学会です。これには最近特に伸びてきた化学工学協会、高分子学会とか昔からある電気化学協会なども入るわけですが、こういうことで、機械なら機械ということで同学の士が集まっている普通の学会とは、少し違うのです。それから雑誌ですが、これがまた非常に変わっておりまして、正会員には通俗的な記事と会告を主体にした「化学と工業」が配布されて、この雑誌によって全部の会員がつながる。その上に、たとえば工業化学を専攻する人は「工業化学雑誌」をとる、理学の基礎的なことをやる人は「日本化学雑誌」をとる、あるいは英文で出しているプレティンをとるというように、いわゆる学術雑誌はオプションで、会費以外にそれぞれ金を払ってとるわけです。このほかに特殊なものとして、化学教育に力を入れるために年4回発行の「化学教育」というのもだしております。現在のところ、学会活動で問題になっていることのひとつに、年に一回の年會に参加者が多くなりすぎて、会場数が増えてきており、また、会期を延長せざるを得ないという問題があります。それから、先ほどいいました縦系学会、横系学会には、いわゆる群小学会に属する中小学会が多いわけですが、これらと日本化学会の関係も問題です。きわめて小数の意見ですが、日本化学会のほうがこれらの中小学会から脅威を受けているという意見もあるようです。

司会 群小学会が、大きな化学会によって押しつぶされそうだということじゃないのですか。

石坂 ええ、私どもはむしろそういう風に感覚的には思っておるのですが、にもかかわらず、専門が分化するとともに群小学会が増える一方になっており、あるものは経済的に苦しく、また、個人は多くの学会に属せざるを得ないというような困ったことが起っておりますので、非常に妙な現象なんです、これを将来の問題としては解決しなければならない。分化があまり進みすぎていくわけですが、いまのところ私どもの方から呼びかけ

### ■ 座談会出席者 ■

(五十音順)



阿部善右衛門氏  
電気学会編集理事  
KK日立製作所中央研究所



石坂 誠一氏  
日本化学会庶務理事  
東京工業試験所



八田 桂三氏  
日本機械学会副会長  
東大教授



八十島 義之助  
土木学会会誌編集  
委員会委員長



吉阪 隆正氏  
日本建築学会理事  
編集委員長  
早稲田大学教授

て一本にすることはとてもできない。いずれはそのような方向へ向かわなければならぬ時期が必然的にくるのじゃないかと考えております。

**司会** どうもありがとうございました。それでは阿部さんにお話しいただきましょう。

**阿部** 電気学会もやはり似たような状態で、いろいろと悩みがあります。たとえば、いわゆる論文の寄稿者と一般会員の利益をどのような割合で考えていけばよいのか。割り切って考えれば、ジャーナルとトランザクションというように分けて、それぞれペイするように会費をとればいいという議論もあるわけです。論文集に割り切ろうとしても、なかなか部数が出ないで、個人的な負担が非常に多くなるというような問題は、たぶん共通の悩みだと思うのですが、そのバランスをどう考えるかが大きな問題だと思います。今日お集まりの皆さんの学会ではたぶん論文集を出されているでしょうが、私のほうは出していないのです。これは通信学会も同じなんです。ジャーナルとトランザクションをいっしょにしているという形ですね。

**司会** そうすると、一般の会員に配られる雑誌と論文集がいっしょなんですか。

**阿部** 合冊の形になっておりますが、いっしょです。論文とジャーナル記事の割合は、論文・資料関係が30%程度、解説・技術総説・会告・トピックス・海外論文紹介が約40%、残りの30%ほどが広告で、毎号300ページぐらいになります。そういうことで現在のところいわゆる論文集を出していないのですが、二、三年前から通信学会のほうで20近くある専門技術委員会の中で、電子計算機、半導体、トランジスタなどの大きな規模のものを選んでトランザクションのようなものを出してきました。ところが最初の1000部という予想が、次第に500、400となって、経済的な問題で今年の4月からストップしてしました。

## 外国も日本の学会活動に注目

**司会** いまのお話しの中で、電気学会と通信学会の関係はどうなっているのですか。

**阿部** 電気学会が主に電気、通信学会は通信関係が主です。前者は弱電も含まれますので、相当大きい共通分野があります。それで連合大会を年に一度もつなど、共同歩調をとれる分野ではお互いに努力しています。先ほど皆さんのお話しにも出ました分化の問題につながるわけです。外国のことを申しますと、イギリスとドイツはいっしょで、アメリカはAIEEが電気学会に、IREが通信学会に相当していたのですが、2年近く前にこれが合同してIEEEになっている。そこで私ども電気関

係学会のほうも合同の気運が一方で出ているのですが、また一方では、突っ込んで行くどうしても細分化の方向が出てくる。なかなかむずかしい問題です。私のほうでは、アメリカの合同がどういった経緯で行なわれたのか、合同してほぼ2年経った現在、当初の目的にならなかったものであるのかどうかというようなことをIEEEの適当な方に寄稿を依頼してあります。まず、合同問題をこれから勉強という状態です。

それから、アメリカのIEEEから日本の論文の全文を英訳したいという話があって、検討の結果とにかく一年だけやってみようということで、去年の雑誌をいま翻訳しております。

**司会** その費用は日本でもつのですか。

**阿部** いや、全部向うです。

**司会** それだけアメリカで日本の研究成果が期待されているということですか。

**阿部** そうですね。ですから、物理学会みたいに、いっそのこと英文の論文集にしまえばペイするだろうという考えもあるわけですが、日本の読者に論文集は英文だけというのがアピールするかというのが問題ですね。

**石坂** 翻訳は日本でやっているのですか。

**阿部** アメリカにいる日本人に頼んで……。ただ内容については、こちらの著者に送らせて、ある程度翻訳原稿のチェックはやる、金は向うが出すそういう契約になっています。

**司会** どうもありがとうございました。これで一わたり皆さんのお話しを伺ったわけですが、どうもいくつかある問題の中で、学会の分化と総合ということは、どこでも大きな課題になっているようです。そこでこの両方向への動きについて、将来の学会のありかたとして皆さんどのようにお考えかを伺いたいと思います。

## 純学術団体からの脱皮

**吉阪** 根本問題としては、学会という名前がついているが、一体、ほんとうに学問のための学会なのか、その分野の技術者の啓もう・親睦機関なのかということがあると思うのですが、建築の場合は、建築士会が後者にあたる。新しい法律の解説とか随筆みたいなものが雑誌の中心になっていて、親睦機関ですね。しかし、昔は、建築学会がいまの建築士会・建築家協会的なこともやっていたわけです。

**司会** そうすると、ある意味では別の形の機能の分化が行なわれた……。

**吉阪** しかし、たとえば新しい法律についての諮問は建築士会とか協会じゃなくて、学会にきます。ですから

学会とはいっても純粋な学術団体というより、もっと包括しているものは広いわけですね。

司会 土木学会も、16000人かの正会員のうち、研究者、学者というのは2000人ぐらいですね。

八田 機械学会でも、大部分の会員が会社の現場技術者です。研究者と技術者をどこで区別するかも問題ですね。そこで分化の問題ですが、分化が進めば進むほどかえってすき間があき、どこかでそれを総合する場が必要になる。

司会 結局、専門学協会と機械学会、電気学会といった大規模な学会を並存するというわけですか。

八田 そうしないと研究活動としてはうまく行かない。そういう線がわれわれのほうは努力すべきじゃないかと考えています。

石坂 化学会のほうは割合いわゆる学会的要素が強い。ソーダ協業会とか軽金属協会というような団体に協会的仕事を任せていまして、現在のところバランスがとれているようです。

八田 機械学会のほうは、会員にメーカーの技師が圧倒的に多いのですが、これまで企業との直接的な関係は非常に薄かった。そたが大きな特色の一つであるのですが、裏返えせば欠点ともいえるわけですね。最近になって、研究協力委員会などをつくって、業界の研究事業に少しでも協力しようという風になってきましたが……。

## 業界との結びつきも深まる

司会 業界との結びつきですが、土木学会の場合は官公庁関係の技術者が会員中に大きなウェイトを占めていて、民間の施工業者側からの会員が割合少ない。そこで、計画・設計の段階と学会との結びつきは非常によいが、施工技術との結びつきが弱かったと思うのです。ただ、何かといえば寄付を頼んだりということでは、結びつきがございますが(笑)……。建築学会のほうはいかがですか。

吉阪 これはどうなるかわかりませんが、建築センターというのをつくろうという動きがありますね。協会も学会も皆いっしょくたにするような考えかたのような

のですが……。むしろ分化するよりも総合するほうの機関が欲しいということの動きだろうと思います。

司会 電気学会はいかがでしょう。

阿部 私どものほうではおもなものが二つあるのですが、その一つは、調査研究専門委員会で、これは大きい専門委員会が15か16と、その下に細分化されて合計40いくつの研究委員会がある。ここで技術的に皆が困っている共通の問題をとり上げて、各メーカーや研究所からでている委員が討議し、レポートにまとめて行くわけです。

八田 その費用は、だいたい企業側から出るわけですか。

阿部 そうです。それからもう一つは規格委員会で、この方の費用の若干は通産省などからも出ますが、しかし、大部分は先の調査専門委員会と同様にメーカーからの維持費でまかなわれています。

司会 それは会員であればいつでも随時参加できる？

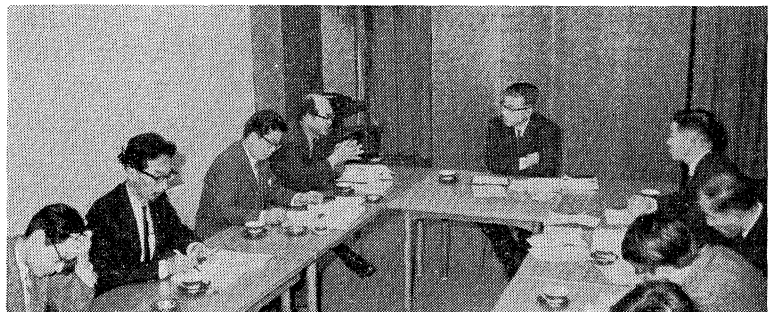
阿部 通信学会のほうではそうしていますが、電気学会ではクローズです。しかし、委員という資格で適当に参加できます。

司会 学会の分化と総合、あるいは業界との関係といったことについての話題はこのくらいに致しまして、つぎに学会誌のことを一応まとめてみたいと思います。たとえば、せっかく会員になって、会誌が届いても積んどくだけで読まない人がいる。こたは会誌を読まなくても自分の仕事はできるということなんですね。そんなんびりした技術が、今日果してあるだろうか。1ヵ月学会誌を読まないと、それだけ取り残されていくというぐらいに切迫感があって会員になり、なおかつジャーナルも開く、論文集も読む、こういうのがほんとうの学会活動であり、そういうサービスを受けて初めて学会に入った意味があるといえるんじゃないか。そういうことで、学会刊行物の比重は、どういう風になっているでしょうか。1ヵ月読まないと……。

## 積んどくから読まれる会誌へ

八田 1ヵ月読まなかったら——なんてことはない

■レインボーホールにおける座談会風景■



思います。というのは特集号などもあるからですが、しかし、ジャーナルのほうは、地方の会員が直接利益を受けるのはこれだけですからね。そこで現在では、会誌の編集も、それを読めば読者の専門あるいはその周辺に何らかの寄与があるように努力している。もちろんそれで完べきだというわけでは決してないのですが、地方へ行っても積んどくばかりでもなくなったという声も聞いております。

**司会** 建築学会はいかがですか。

**吉阪** やはり積んどくが多いでしょうね。それも東京の人達(笑)……………。

**司会** なるほど、いくらでもほかから刺戟が得られるということですかね。化学の場合いかがですか。かなり進歩が早いと思いますが……。

**石坂** 会員全部に行く「化学と工業」にちょっと駄文を書いても気づいてくれる人が多いことから考えて、かなり読まれているようですね。それから、専門雑誌のほうは、基礎的な「日本化学雑誌」が4600、「工業化学雑誌」が5700出ている。オーバーラップしている分を考えると、会員数を29500人として、30%はとっていることになります。さらに、まったくオリジナルなものをつくる英文誌がありまして、これが3800部出ている。だから積んどくかどうかはわからないが、専門誌も相当出ているわけです。会員になって雑誌を3冊とると、会費を入れて合計5400円になるのですが、5400円出している人がかなりいますね。

**司会** それだけ読む値打ちがあるということでしょうね。

**石坂** とにかく技術の進歩が、ことに外国の進歩が非常に早いので、われわれも遅れまいとして一生懸命やっているわけです。

**司会** 電気などもずいぶん進歩が早いように見えるのですが、通信もふくめて電気関係のエンジニアには、置いてけぼりを食っちゃいけないという気持ちはあるのでしょうか。

**阿部** これはとくに、研究者、あるいは新製品開発にたずさわっているエンジニアには非常に大きいと思います。といいますのは、たとえば自分で、これはオリジナルティのある研究だと思って特許出願をして安心と思っていたのが、二、三年たつとアメリカのほうですっかり特許を押えられちゃって、せっかく研究したのに先方の特許を使わなければ製品化できないというような事態が非常に増えているわけです。しかし、まあ、そういう人は全会員中の数%か10%ぐらいのものでしょうから、全体としてこのような切迫感があるかといえば、これはちょっと問題ですがね。

**司会** 結局、100%がそういう切迫感はないにして

も、何かのときの手助けになってくれる、さきえになってくれる、というのが学会活動であるといいたところなんです。この点で学会などに入らなくても、その中にいけば十分やって行けるというようなグループがあるかということですが……………。

**阿部** それはあり得ると思います。というのは、たとえば私どものほうでいいますと、電気通信研究所とか電気試験所などの大きい研究グループがありますね。そういう所の専門グループに入っていれば、情報は十分入ってくると思うのです。ただ、実際と同じ分野の専門家達と会っていろいろな討議をするという、学会の大会とか専門委員会などへ出るには、やはり学会に入っていなければできない。

**司会** ほかの学会の皆さん、結局つながりといえばそういうことでしょうか。

**吉阪** 建築のほうは、美術、経済、歴史、評論など多くの分野の人が集まる必要がありますから、やはり研究活動は学会を中心にしてやっていますね。

**八田** 信用というのがあるんじゃないですか。機械学会の場合は、相当会員の方々から信頼されているようです。雑誌についても自分の専門の箇所よりも、専門の周辺だとか、あるいは専門外のことのほうが非常に役に立つ、むしろそういうものばかり読んでいるという声もよく聞きますね。

## 会誌は商業誌と競合する必要はない

**阿部** 今は普通の商業誌だって、いろいろPRとか解説記事をもっているわけですし、その内容については一応専門家が目を通していただくわけですから、とんでもないものが載るようなことはないわけです。しかし、学会だから本当の専門家に頼めるし、頼まれたかたも学会ですからOKせざるを得ない。しかし、商業誌だと簡単に断られるわけです。そういう意味での学会の立場は、読者の側からいえば非常に貴重だと思うんですが……………。

**八田** それは雑誌だけじゃなくて、私どもの研究協力委員会にしても、学会だからそれに最適の人間を動員できる。特定の個人、または企業に頼むよりも学会に頼んだほうが良いというふうになってきているのは、同じような理由だと思います。

**吉阪** 建築の場合ですと、結局専門外の経済学や社会学といった立場からの見方が必要で、特に特集などの場合こういったことがあるのですが、そのときでも学会から依頼すればたいていOKしてもらえますね。

**石坂** 私のほうはだいたい違わうですね。会員は純正化学の人は別としても、アプライド・ケミストリーの専門家でほんとうの意味のエンジニアじゃない。したがっ

て、会員のほとんどが多かれ少なかれ研究的な立場の人なんです。それに先ほどもいいましたように「化学教育」などという雑誌を出しておりますが、これなども、ほかの学会にはないかもしれませんね。

八田 会員の構成がちょっと違うかも知れませんね。

司会 雑誌のことで最後に伺いたいのですが、学会の機関誌と商業誌ではそもそも性格が違いますけれど、もうかるとなれば、一般の出版社がずいぶん専門的な雑誌を出していて、学会誌と競合するというようなことはありませんか。

吉阪 建築関係の雑誌はものすごくたくさん出ているので、ジャーナルな面ではとても勝負できません。どうしたってこちらのほうが3ヵ月ぐらいおくらせて出ますからね(笑)。新しい建物ができると、商業誌はすぐ大きな写真でも入れて出します。学会誌はむしろ記録にとどめて行くんだという考えかたをしているわけです。

司会 機関誌ですから、会告的な記事がたくさんあるし、見ておもしろい雑誌になるわけではないので競争などもともと無理なんでしょうが、あまりニュースが古かったりすると、会員から苦情が出ませんか。

八田 そういう意味でニュース的なセンスは非常に弱いかも知れませんね。たとえば、新製品紹介なども一度やり始めたことはあるんですが、すぐつぶれて、そういう種類の記事はほとんどありません。

司会 化学のほうは、そういうニュース的なものを扱っておられますか。

## ニュースに弱い学会誌

石坂 「化学と工業」でいわゆる読物を集めているわけですが、たとえば「工業化学雑誌」でシンポジウムなんかときどきやるのですが、その紹介をちょっと前に「化学と工業」に書くわけです。そうすると一般の会員は、この専門誌をとってなくてもその内容を知ることができますから、それを買うなりコピーするなりできる。こんなふうにも使ったりしています。やはりいろいろ批判はありますが、まあまあというところじゃないでしょうか。それから新潟の火災では「防災委員会」が活動しましたが、「化学と工業」の編集担当理事が現場に行ってみるところまではやりました。

司会 電気はいかがですか。

阿部 私のほうは毎月5ページ前後のニュース欄をとっております。しかし、委員の誰からかネタが出ますと、ほかの委員がもう一度見るとか、危いから研究所の誰かに見てもらえとかいう意見が出て、どうしても遅れますね。しかし、会員の評判はかなり良いです。

吉阪 私のほうも1ページだけニュースをとっていま

す。「話題欄」という形で……。

八田 ニュースソースはどうされるのですか。

吉阪 だいたい新聞を切り抜いてその中からひろい出すという方法ですね。

阿部 先方に問い合わせ、データをもらって書くわけではないのですか。

吉阪 いよいよ間に合わないときは、新聞記事をそのままさらに短くしてということです。

司会 土木学会ではニュースを編集委員会にかけているととても間に合わないの、これだけは事務局でどんどんやらしてもらいます。それではつぎに今後の学会活動についてご意見を伺いたいと思います。外国に対するものもふくめて、対外的な学会活動の面で、いかがでしょうか。

## 対外活動は学会によってまちまち

吉阪 国内では学会に対するいろいろな問題の諮問は相当ありますね。最近の超高層にしても、基準法関係なんかしょっちゅうあります。実務面でも、新しい構造法など役所では確認ができないから、建築研究所へ回す、そこでちょっともて余すと学会にくるという形です。

八田 私どものほうは、政策的な問題は全部業界で、学会は純技術的な問題だけです。もちろん、受身だけではなく、学会の側からも規格などこういうものをきめたらどうか、というような発言をするための委員会もあります。それから、ISOなど海外との連絡のための常置委員会があって、学会自身の経費で研究しています。

司会 土木学会では、たとえば、技術者が足りなくて困っているから、ほうぼうの大学に土木工学科をつくれということや文部省に申し入れるという程度のことしかやっていないのですが、昔はむしろいまよりよくやっていて、東京が市の時代には、地下鉄網はこうしたらよろしいといったレコメンデーションを出したりしていたんですね。こういった活動は、今後の学会としてもっとやったほうがいいのか、諮問があれば応じる程度でよいということですが……。

石坂 大きな学会というのはなかなか動きにくいものなんですね。だから私ども化学会のほうでは、むしろ下部の中小学会からの呼びかけに応じて、という形になるのですが、どうしても消極的になりますね。

吉阪 建築でも、学会が外に向かってこういう研究をしろというようなことはほとんどありません。しかし、建築法を改正するならどうしろとか、そういった発言を会長名で建設大臣あてに出すということは、ちょいちょいあります。

司会 そういう意味では、かなり活発にやっているわ

けですね。

**阿部** その点では、電気学会は機械学会と変わらない態度をとっていますね。幸い電気関係では、エレクトロニクス協議会というのがあって、ここで政府に対する勧告などをやっています。

**司会** 技術行政的といいますか、わりに純技術に近い面で、なおかつ一般に訴えなくちゃいけないというような問題が出てきいときはどうですか。

**阿部** たとえば、いろいろな条件があっても、技術的に  $2+2=4$  というように結論の出るものなら、これは学会として先鞭をつけてやってもいいのですが、対社会の問題が入ってくるとそうはいかない。結局、諮問でもあれば委員は出すが、学会がリーダーシップをとってやるとなると問題が出てきますね。

**司会** では、研究と並行して、技術者の交流とか待遇などといったことを、学会で取り上げるというようなことはいかがでしょうか。

**阿部** 私のほうでは全く聞いておりません。

**八田** 会誌の巻頭文などの個人の署名のページで、そういう意見を大いに出そうという意見はあります。これは一応編集委員会のがのせることを認めたのではあるが、あくまで署名者個人の意見という形になるわけですが……。

**吉阪** 建築学会は、建築士会とか建築家協会とかがありますから、地位、待遇など問題はそちらの仕事になりますね。

## 欲しい共通の話し合いの場

**八田** それから、こうしていろいろな学会があってそれぞれの立場で相当大きな仕事をしているのですが、学会という組織や運営に共通の問題を解決したり、学会の存在自体をもっと行政的な面で育成するといえますか、そういう点について共同で何か行なえたらと思っているのですが、日本工学会などをうまく利用できるかと思うのですけれど……。

**阿部** 電気にしても機械にしても土木にしても、工学会全体としての問題が相当あるわけですから、せめて大きなビルにでもいっしょにいれば、連絡なんかもどんでんできる。

**司会** ニューヨークには何かそういうのができているんじゃないですか。確かに日本でも欲しいし、その点、日本工学会あたりがそういう役割りをはたしてくれればありがたいのですが、いまの状態じゃ無理でしょうね……。

それでは最後に、大会の運営と学会賞について簡単にお伺いしたいと思います。

## 大会のマンモス化に悩む

**阿部** 私どものほうは毎春、電気学会、通信学会、テレビジョン学会、照明学会が共催で連合大会を東京と地方で交代に開きます。発表件数は2000件程度になっていて、あまりに多くていろいろな問題がありますので、今後の運営については改善委員会で検討しています。このほか、各支部主催の支部大会を秋に行っています。これも電気と通信など関係学会の共催がほとんどです。

**八田** 機械学会でそれに相当するのは年三回、春の総会、秋に全国大会、春は東京、秋は必ず地方でやりませう。それから秋期東京講演大会があります。

**司会** 夫人連れの参加も地方大会では多くなりつつありますし、亭主の仕事を理解させるよいチャンスなのだから、レディス・プログラムも考えねばなりませんね。

**吉阪** 建築のほうの大会は春と秋で、毎回開催地を変えます。今年は8団体合同でしたから、ちょっと特殊でした。やはり電気学会と同じ位の論文が出ています。

**石坂** 化学のほうもだいたい同じでして、春に総会をやるのですが、論文件数が多くなりすぎて、現在年会対策委員会をつくったりして検討しているのですが、結論が出ません。

それから、変わったことは、最近、総会に外人が何人かくるようになったことです。

**司会** だいたい、皆さん大会運営には頭を悩ませておられるようですが、学会賞のほうはいかがでしょう。

**吉阪** 建築学会には、論文賞、作品賞、業績賞の三つがあるのですが、すべて個人対象です。数はきまっています。

**石坂** 化学は、学会賞が4名、進歩賞が6名、これらは会員に送られます。このほか化学技術賞を2件、会員に限らず公募して差し上げております。

**阿部** 電気は、電気学会功績賞が1名、電力賞が2件、電気学術振興賞のうち進歩賞が3件、論文賞が2～3件、著述賞が1～2件あります。

**八田** 機械は、機械学会賞と機械学会畠山賞の二つで、前者は論文に約10件、完成された製品に約5件出します。それから畠山賞というのは全国の大学の機械科から1名ずつ推薦してもらって、新卒者に記念品を差上げるというものです。

**司会** どうもありがとうございました。それではこのへんで座談会を終らせていただきたく思います。

本日はお忙しいところ、長時間にわたり有益なお話しをお伺いいたしまして、ありがとうございました。

【文責・編集部】